



山重っ子

校訓「やさしく かしこく たくましく」



少年は手を離せ、目を離すな！

校長 川崎 正

朝夕も涼しくなり、ようやく過ごしやすくなってまいりました。9月24日(日)、創立150周年記念運動会では、4年振りに校区との合同運動会となり、運動会スローガン「150周年の本気、優勝目指して立ち上がれ」のもと、練習の成果を存分に発揮できました。運動会でなければ育てられない力もあります。子どもたち一人一人が自分の力を高め、精一杯表現できたと思っています。また、地域の方々の競技を見たり、一緒に競技したりすることを通して、より心に残る運動会になったと思います。本当にご協力・ご支援ありがとうございました。

ところで『子育て四訓』については、もうご存じかとは思いますが、改めてご紹介します。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 乳児は、しっかり肌を離すな | 2. 幼児は肌を離せ、手を離すな |
| 3. 少年は手を離せ、目を離すな | 4. 青年は目を離せ、心を離すな |

この『子育て四訓』からは、子どもたちが成長していく過程(子どもを育てる過程)には、大事なタイミングがあることがわかります。それぞれの時期に、意識してやらなければならないことがあるということがわかります。乳児にゲーム機やスマホを持たせて子守の代行をさせたり(1の逆)、幼い我が子をかawaiiさあまりに、外の刺激に触れさせず、必要以上に過保護にしたり、また逆にスーパーや公共の人の集まる場で、大声を上げて走り回る子どもをそのまま放任したり(2の逆)など実際にそのようなニュースや場面を見ると、考えさせられます。

子育てとは、別の側面から見れば、親離れ、子離れの実現＝「独り立ち」を支援することといえるかもしれません。そのためには、「離さない」ことも大事だけれども、それと同じくらい「離す」ことも大事だとそう教えています。

1年生から6年生が生活する小学校では、「少年は手を離せ、目を離すな」をよく肝に銘じておかなければならないことだと感じます。1から10まで何でも教えていては、子どもたちは受け身になるばかりで、自主性は育ちません。主体的な態度を育てるためには、その子に寄り添いながらも、そっとヒントを与えてその子自身が気付くのを待ったり、促したり、できるだけ自分で考え、自ら解決しようとする姿勢を後押ししたりしていくことが大事なのだと思います。目を離さないながらも、手は上手に離していく…ご家庭でも改めて考えていただければと思います。

《今回も国道269号線がきれいになりました》

10月1日(日)の午前中、山重校区コミュニティ協議会の地域づくり部による本年度2回目の国道269号線美化作業が実施されました。今回も保護者や地域の方々がたくさん参加され、国道沿いの草を払ってくださり、広範囲にわたってすっかりきれいになりました。おかげさまで本校の子どもたちが今後も気持ちよく登下校できます。



ご尽力くださった皆様、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。